

水曜通信 24

東北学院大学研究ブランディング事業通信
「東北における神学・人文学の研究拠点の整備事業」

2019年
7月

第24回水曜礼拝（公開大学礼拝） 2019年7月17日（水） 18:30-19:00



説教：鐸木 道剛（本学文学部教授）

奏楽：大泉 真理（本学礼拝オルガニスト）

〈礼拝次第〉

前 奏：J.S.バッハ「愛しきイエスよ、我らはここにBWV730、731」

讃美歌：讃美歌第二編150番「あめなるよろこび」

聖 書：コリントの信徒への手紙一 13章12節-13節

讃美歌：聖公会古今聖歌集増補版

1番「あなたの平和の道具にしてください」

説 教：「礼拝：イエスとの出会い」

頌 栄：539番「あめつちこそりて」

後 奏：J.S.バッハ

「人はみな死すべきさだめ BWV643」

後奏の後、大泉真理氏（本学礼拝オルガニスト）のオルガンによる讃美歌の演奏を行ないます。皆様とご一緒に讃美いたします。

8月の水曜礼拝はお休みです。
次回第25回水曜礼拝は9月18日です。

第23回 水曜礼拝報告(説教:出村 彰、奏楽:小野 なおみ)

2019年6月19日(水) 18:30-19:00

讃美歌: 38番「わが霊のひかり」
聖書: マルコによる福音書 9章14-29節
讃美歌: 270番「信仰こそ旅路を」
説教: 「わたしの不信仰をお助けください」
頌栄: 539番「あめつちこそぞりて」



【説教要旨】

今夜の聖書箇所は、主イエスの宣教活動の初期、テンカンの子を持った父親と、主イエスとの対話、そして治癒の物語です。

幼な子はしばしば生命の危険に曝されてきただけに、この子の回復(古代世界で一樣に信じられていた表現ならば、「悪霊の放逐」)こそが、この父親の熱願でした。弟子たちではどうにもならない危機に際して、主イエスからの問いかけに父親は叫びます、「信じます。信仰のない私をお助けください」。

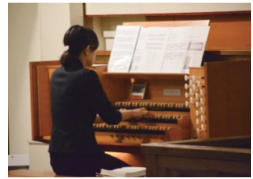
しかし、聖書の原語では、この箇所は「私の不信仰を助けてください」とあるのです。信仰の有無・その多寡・熱烈さなど、いずれもが「私の……」であるかぎりには、救いの根拠とならないということです。父親が、そして、私たちが告白できるのは、「私の不信、無信、反信」しかないからです。善行はないが、信仰だけは、それでは信仰を誇ることとならないでしょうか。

宗教改革者ルターは、「キリスト者になるとは、罪人になることだ」と断言しました。信じられることさえも、実は神の恵みの賜物だからです。東北学院が依って建つキリスト教、「福音主義」とはこの自覚にほかなりません。(出村彰)

前奏: J.S.バッハ「ただ愛する神の力に委ねる者はBWV647」

後奏: J.S.バッハ「ただ愛する神の力に委ねる者はBWV642」

前奏、後奏共に17世紀のコラールを元にしたバッハの作品です。前奏はオルガンのための《シュープラー・コラール集》に収められており、カンタータ第93番の第4曲、二重唱のアリアをバッハ自身がオルガン用に編曲したものです。後奏は、初歩のオルガニストがコラールを用いた作曲やペダル奏法を学ぶための手引きとして書かれた《オルガン小曲集》の一曲です。



(小野なおみ)

礼拝とその後の19時00分から30分までのモリゴー・フォーの男声四重唱での賛美に53名の市民が参加されました。

礼拝後、モリゴー・フォー(グリーククラブOB・聖歌隊OB)による男声四重唱での讃美

久しぶりに懐かしい礼拝堂で賛美することができ、感謝でした。

今回は、はじめに「ガリラヤの風かおる丘で」(讃美歌21-57番)を賛美した後、“まばたきの詩人”水野源三さんの詩を朗読と歌とで紹介しました。朗読は松田千津子さん(本学就職キャリア支援課職員)にお願いし、小野なおみさんに伴奏していただき、「朝 静かに」「苦しまなかったら」「主よ なぜ」「主から受けし」の4曲を詩の朗読と交互に賛美しながら、彼の生涯とその信仰に触れることができました。

最後に、「主よ おわりまで」(讃美歌338番)をみんなで賛美して、静かな夜のひと時を過ごしました。(日野 哲)

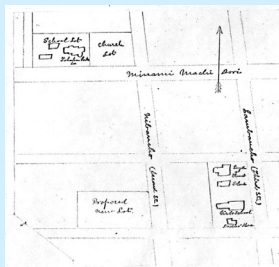


“FAITHFUL UNTO DEATH” (7)

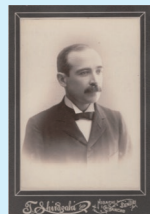
「金子謹三の貢献—校地の取得—」

金子記念基金は、押川とホーイが相次いで東北学院を去った後に全責任を委ねられたシュネーダーが、その存立と発展に必要であった校地の取得のためにも用いられました。シュネーダーが院長に就任した1901年の時点で東北学院が所有していた施設は、南町通りの神学部校舎と隣接する寄宿舎だけで、ここに130名以上の生徒を収容していたこと自体が驚きでした。

シュネーダーは、既に1900年8月には東二番丁に手頃な土地が売りに出ており、金子記念基金を用いることを外国伝道局に提案し、翌年2月8日付の手紙ではこの土地の



シュネーダー手書きの地図 1901年 院長シュネーダー (東北学院史資料センター 日野 哲)



見取り図も添えて決断を迫っていました。シュネーダーは、これを校地として取得して普通科(後、中学部)を移転し、さらに1916年には南六軒丁にも校地を取得して専門部を移転させています。

中学部と専門部の校舎建築に際して、シュネーダー夫妻がたびたび帰米して募金活動を行ったことはよく知られていますが、その校地取得に際して金子記念基金が用いられたことはあまり知られていません。(続く)

建築との対話:礼拝堂建築調査の現場から(1)



現況写真



東北学院史資料センター蔵:『東北学院日本基督教會禮拜堂落成式記念』(昭和七年三月十九日)より

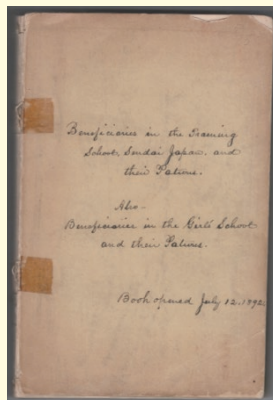
ラーハウザー記念東北学院礼拝堂は、昭和7(1932)年3月に献堂されました。設計は横浜を中心に昭和戦前期の日本で活躍した米国出身の建築家J.H.モーガン(1868-1937)で、東北学院史資料センターには、建設時の設計図面や、建築家モーガンからシュネーダー院長(当時)に送られた書簡なども保存されています。

今回、この礼拝堂と関連資料について、建築学の立場から調査を実施することになりました。調査内容としては、①建築史的調査(建物の文化的価値に関する調査)、②建築構造学的調査(建物の振動特性等の把握と評価)、③建築材料学的調査(石材の劣化状況等の把握と評価)を予定しています。得られた知見は、『水曜通信』でも随時、報告していく予定です。(続く) (崎山俊雄)

— ランカスター神学校での発見（9） —

「奨学金受給者と支援者の名簿」

今回収集した資料の中に、奨学金の受給者とその支援者を記した小冊子があります。創立当初、ホーイが6名の生徒の一年分の全費用を個人で負担したことは知られていますが、その後もアメリカの諸教会が多くの上学生を支えたことを示す貴重な資料です。



奨学金受給者と支援者の名簿

1892（明治25）年7月12日から始まる約10年に及ぶ詳細な記録には、奨学金の受給者として、東北学院（“Training School”）約40名、宮城学院（“Girl's School”）約50名の上学生の名前が記されています。支援者は主としてペンシルヴェニア州にあるドイツ改革派教会の会員（個人）または教会学校、青年会、婦人会などで、支援する奨学生の写真がいつ送付されたかも記されていることから、教会では送られた写真を礼拝堂の壁に掲げて、その学生の顔を見ながら祈りをもって支援を続けたことが想像できます。

中には、シュネーダーの推薦文が記されている学生や、病気のために途中で学業を断念せざるを得なかった学生などもおり、創立当初の学生一人ひとりを偲ぶことができる資料です。

（東北学院史資料センター 日野 哲）

2019年度下半期水曜礼拝開催予定のお知らせ



毎月 第3水曜日 18:00～19:30

（礼拝18:30～19:00、礼拝後の音楽・講話19:00～19:30）

土樋キャンパス／ラーハウザー記念東北学院礼拝堂

2019年

- ・ 9月18日（水）
- ・ 10月16日（水）
- ・ 11月20日（水）
- ・ 12月18日（水）

2020年

- ・ 1月15日（水）
- ・ 2月19日（水）
- ・ 3月はお休みです。

文部科学省私立大学研究ブランディング事業とは：

学長のリーダーシップの下、大学の特徴ある研究を基盤として、全学的な独自色を大きく打ち出す取り組みを行う私立大学に対し、施設費・装置費・設備費と経常費を一体的に支援するもので、各大学の特色化・機能強化の促進を目的としています。東北学院大学は、「東北における神学・人文学の研究拠点の整備事業」との事業名で平成28年11月22日に採択されました。

東北学院大学研究ブランディング事業通信
第24号

2019年7月9日発行

〒980-8511 仙台市青葉区土樋1-3-1

TEL：022-264-6547

E-mail：branding@mail.tohoku-gakuin.ac.jp

URL：http://www.tohoku-gakuin.ac.jp/theology/